



平成 9 年 6 月 1 6 日
日本原子力発電株式会社

敦賀発電所（1号及び2号機）使用済燃料貯蔵設備の貯蔵能力変更及び
雑固体減容処理設備設置計画に係る事前了解願いについて

当社は、本日、敦賀発電所（1号及び2号機）使用済燃料貯蔵設備の貯蔵能力変更及び雑固体減容処理設備の設置計画について、福井県及び敦賀市ご当局へ「原子力発電所周辺環境の安全確保等に関する協定書」に基づく「事前了解願い」を提出いたしました。今後は、関係ご当局をはじめ地元の皆様のご理解、ご協力を得て本計画を進めて参る所存です。

計画の概要については、別紙のとおりです。

別紙 事前了解願いの概要

1. 使用済燃料貯蔵設備の貯蔵能力変更計画

- (1) 発電所名
敦賀発電所
- (2) 変更する施設名
使用済燃料貯蔵設備（1号及び2号機）
- (3) 変更する理由
敦賀発電所については、使用済燃料の受け入れが予定されている日本原燃(株)再処理工場への搬出を考慮しても、2000年過ぎに同発電所使用済燃料貯蔵設備の運用が厳しくなることが予測される。
このため、2号機原子炉建屋内の1号及び2号機使用済燃料貯蔵設備の貯蔵能力を増強し、使用済燃料管理に万全を期すこととする。
- (4) 変更位置
敦賀発電所2号機原子炉建屋内使用済燃料ピット（第1図～第3図参照）
- (5) 構造及び設備
敦賀発電所2号機原子炉建屋内使用済燃料ピットの1号及び2号機使用済燃料ラックを、ボロンを添加したステンレス鋼を使用し、稠密化を図った新ラックに取替える。これにより、使用済燃料貯蔵能力は、敦賀発電所1号機で790体（全炉心燃料の約260%相当分）から1217体（全炉心燃料の約400%相当分）に、2号機で987体（全炉心燃料の約510%相当分）から1734体（全炉心燃料の約900%相当分）となる。
- (6) 工事計画使用済燃料貯蔵設備の貯蔵能力変更工事：平成10年10月頃～平成12年9月頃（工事はブロック毎新ラックに取替え、取替え後は順次供用を開始する）

2. 雑固体減容処理設備設置計画の概要

- (1) 発電所名
敦賀発電所

(2) 設置する施設名

雑固体処理建屋（1号及び2号機共用）

雑固体減容処理設備（1号及び2号機共用）

(3) 設置する理由

現在、1号及び2号機から発生する固体廃棄物は、ドラム缶又は鉄箱に封入し、1号及び2号機共用の固体廃棄物貯蔵庫に貯蔵保管している。このうち、均一固化体については、計画に基づき日本原燃（株）六ヶ所低レベル放射性廃棄物埋設センターに搬出しているが、今後の固体廃棄物の発生量を考慮すると、将来的に固体廃棄物貯蔵庫の貯蔵余裕が少なくなる。また、1号機の復水脱塩装置の使用済樹脂については、現在建設中の使用済樹脂受けタンクに貯蔵することとしているが、タンク貯蔵量を考慮すると計画的に処理する必要がある。これらのことから、雑固体廃棄物等を減容処理して貯蔵能力を確保するとともに、将来的な雑固体廃棄物を対象とした埋設事業に対応するため、1号及び2号機共用の雑固体減容処理設備を設置する。

(4) 設置位置

2号機タービン建屋の東側に雑固体処理建屋を新設し、雑固体減容処理設備を同建屋内に設置する。（第1図、第4図、第5図参照）

(5) 構造及び設備

雑固体廃棄物等を受け入れ後開缶・分別し、プラズマ溶融炉にて溶融・燃焼した後、充てん固化装置にてモルタル充てん固化する設備である。排ガスについては、同建屋内に排ガス処理装置を設置し、処理する。

また、本設備から発生する廃液は、廃液モニタタンクを設置し、処理する。

(6) 工事計画

雑固体処理建屋設置工事：平成10年10月頃～平成12年12月頃

雑固体減容処理設備設置工事：平成11年1月頃～平成13年3月頃

添付資料1 敦賀発電所構内配置図（第1図）

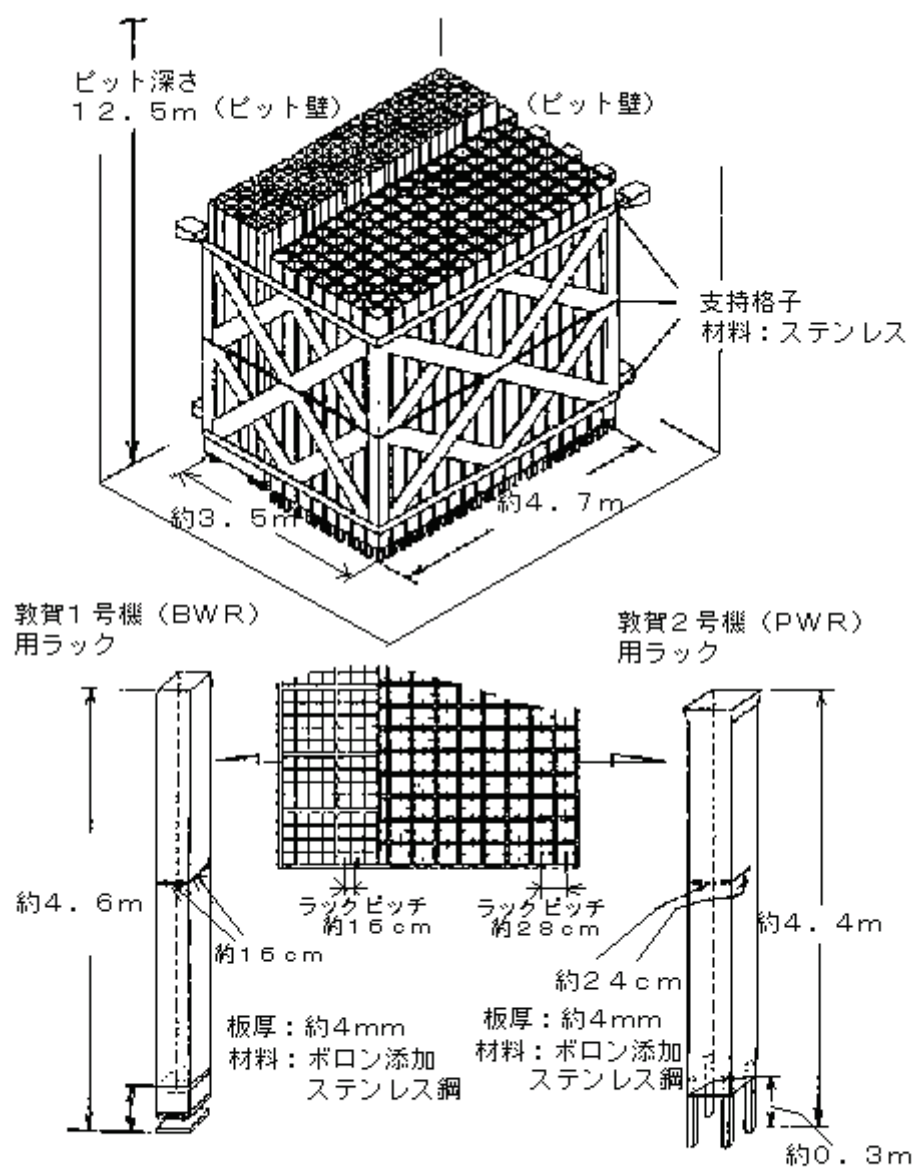
添付資料2 敦賀発電所2号機使用済燃料貯蔵設備の配置図（第2図）

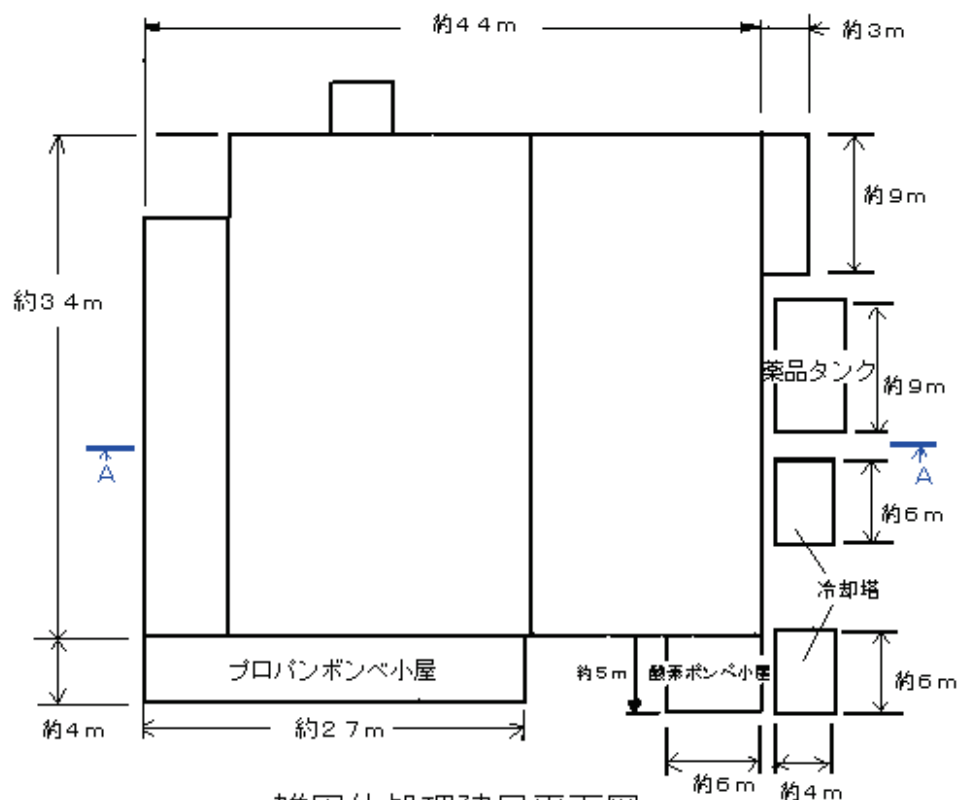
添付資料3 敦賀発電所2号機使用済燃料ピットのラック概要図（第3図）

添付資料4 雑固体処理建屋概念図（第4図）

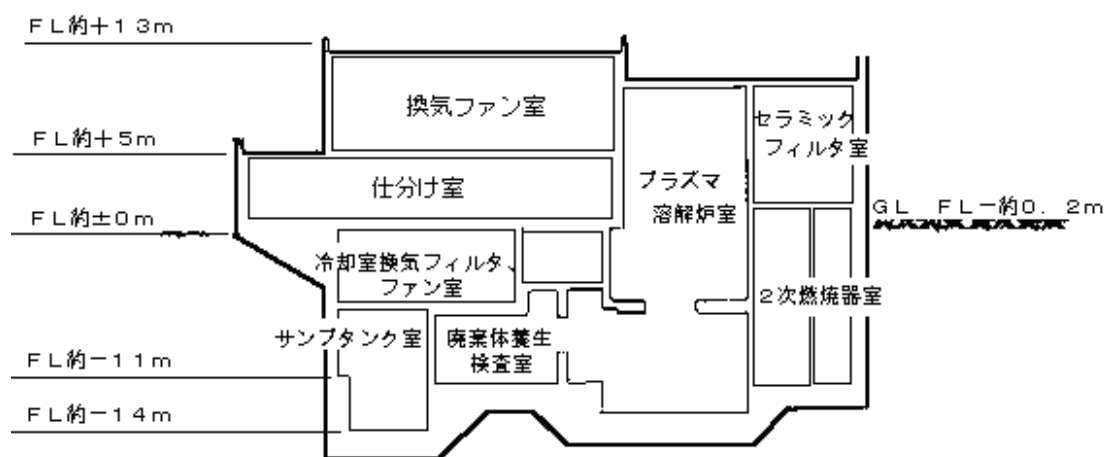
添付資料5 雑固体減容処理設備概略フロー図（第5図）

第3図 敦賀発電所2号機使用済燃料ピットのラック概要図





雑固体処理建屋平面図



雑固体処理建屋断面図 (A-A断面)

第5図 雑固体減容処理設備概略フロー図

